

令和7年8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和7年8月1日（金）午前11時00分～11時55分

場所 市役所2階 第2委員会室

出席 市政記者クラブ9社 12名

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1 「8月の平和事業および戦後80年事業」の実施について

- はじめに、「8月の平和事業および戦後80年事業」の実施についてです。
- 今年度は終戦から80年を迎える節目の年です。また、釧路市でも「核兵器廃絶平和都市宣言」から40年、栄町平和公園にある平和のモニュメントを建立して30年を迎える年でもあります。
- 釧路市では平和都市推進委員会として、「被爆地訪問市民代表団の派遣」事業を実施しており、来週の8月5日から8日まで広島市を訪問します。
- 訪問団のメンバーは、委員長である私を団長に、過去3年間の平和読書感想文コンクールの受賞者4名が団員として参加します。
- 広島市では、8月6日に平和記念公園で行われる平和記念式典に参加するほか、広島平和記念公園内の「原爆の子の像」に千羽鶴を奉納してきます。この千羽鶴は、市民の方や企業、小中学校の皆さまに釧路市のオリジナルデザインである丹頂鶴の折り紙を使用して、お一人様一羽ずつ、平和への想いを込めて鶴を折っていただきました。
- また、戦後80年事業として、今年度より戦争体験の収集を行っております。ご自身の記憶や、家族の証言など、釧路空襲の記憶や疎開先での生活など些細な事でも結構ですので、ぜひご提供ください。
- 他にも平和事業では、毎年8月15日に開催しています「戦災死没者慰霊式並びに平和祈念式」を、今年も栄町平和公園にて執り行います。会場では、平和コンクール過去10年分の入賞作品を記録した、戦後80年記念誌を配布いたします。

2 釧路市と亜細亜大学との包括連携協定について

- 次に、釧路市と亜細亜大学との包括連携協定について、ご報告いたします。
- 釧路市と亜細亜大学とは、亜細亜大学硬式野球部による合宿が平成22年に釧路市で初めて実施されて以来、「亜細亜大学同窓会『青々会』北海道連合会釧路支部」、「釧路活性化プロジェクト実行委員会」、「釧路を元気にする華実の会」などの団体をはじめ、地域の皆さまのご協力のもと、これまで、合宿期間中には「少年野球教室」や「指導者講習会」、強豪社会人チームやプロ野球3軍などとの交流戦である「タンチョウリーグ」を開催するなど、16年に渡りさまざまな事業を継続してまいりました。
- 今年度は、硬式野球部54名による合宿のほか、初の女子陸上競技部22名による合宿も予定されているなど、より一層関係が深まっている中、スポーツ活動に加え、多岐に渡る事業に連携して取り組んでいくことを目的として、この度、8月8日付で包括連携協定を締結する運びとなりました。
- 連携することとなりました協定内容は、「交流人口拡大及び地域振興に関すること」、「両者のPRに関すること」、「人材育成に関すること」など、6つの分野において相互に連携・協力していくこととしております。
- 今後の予定としましては、8月8日に釧路市役所において包括連携協定調印式を行う予定となっており、亜細亜大学からは永綱学長や、硬式野球部の正村監督、女子陸上競技部

の岡田監督などが出席予定となっておりますので、報道方よりよろしくお願いいたします。

3 釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の返還について

- 続きまして、釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の返還についてです。
- 釧路市教育委員会の所管する博物館において、発掘調査などを通じて収集したアイヌの方々のご遺骨、計10体以上と、刀などの副葬品の返還について、令和5年7月に策定しました「釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針」に基づき、令和6年1月に釧路アイヌ協会を、翌2月に阿寒アイヌ協会を地域返還団体としてそれぞれ確認したことは、これまで報告させていただいたところであります。
- その後、返還に向けた協議を重ね、この度、両協会と合意に至り8月29日（金）午前10時より、阿寒霊園納骨堂において「阿寒アイヌ協会」への返還を、10月18日（土）午後2時より釧路市アイヌ共同納骨堂において「釧路アイヌ協会」への返還を、それぞれ行います。
- 返還するアイヌ遺骨等につきましては、「参考資料」のNo.1から9まで、計9体以上のご遺骨と副葬品を釧路アイヌ協会へ、No.10の1体のご遺骨と副葬品を阿寒アイヌ協会へ、それぞれ返還いたします。
- なお、返還の際には、両アイヌ協会の主催により、返還されたご遺骨に対する慰霊の儀式などが執り行われます。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・ アイヌ民族の遺骨の件について、阿寒アイヌ協会に返還する遺骨は1体と思いますが、釧路アイヌ協会に返還する遺骨は何体と表記するのが正しいのでしょうか。

（博物館長）

- ・ 配布資料に記載しておりますが、No.9については複数体となっており、何体と具体的にわかっておりませんので、9体以上と発表させていただいております。

（質問）

- ・ 阿寒アイヌ協会には1体返還して、釧路アイヌ協会には9体以上という表現でよろしいのでしょうか。

（博物館長）

- ・ そのようにさせていただいております。

（質問）

- ・ 2024年1月から返還の手続きが開始され、当初1年以内に返還を目指すと発言されていると思いますが、1年半近く時間がかかった理由、経緯について、お聞かせください。

（博物館長）

- ・ 両アイヌ協会とそれぞれ、また、合同での協議を重ねてまいりました。その中で日数的には現在に至っておりますけれども、当時、予想することができなかった海外からの遺骨返還といったことが釧路アイヌ協会であり、阿寒では大学側での返還の遺骨もありまして、それらも含め様々総体的に協議する中で、今般、日時を決定することができ、返還に至ったものでありますので、ご理解いただきたいと思います。

（質問）

- ・ アイヌ協会の事情で遅れたということになりますか。

（博物館長）

- ・ 予期しない他からの遺骨の返還があり、そういったことも含めて総体的に議論を重ねてまいりましたので、多少時間を要したと思っております。

(質問)

- ・ 今回時間がかかりましたが、アイヌ遺骨が無事返還する目途が立ったということで、その点について市長としてどのような思いをお持ちですか。

(市長)

- ・ これからに向けて、アイヌ協会の皆さんと一緒にこの遺骨をしっかりと安置していく、そしてアイヌ協会の皆様ともこういった分野でもしっかりと関係性を築いていくことが重要と考えております。

(質問)

- ・ 都心部まちづくりに関して、市民説明会と市政懇談会で説明されたと思いますが、市が提案する直線化について、どのようなまちづくりをしたいという市長自身の思いをお聞かせいただきたいのと、それに対する市民の理解が深まったかどうか、どのようにお感じになられているかお聞かせください。

(市長)

- ・ 今回の市民説明会および市政懇談会、釧路駅直近の高架下道路の整備方針について、市民の意見を聞くことを主な目的の一つとして、開催させていただいておりました。
- ・ ご参加いただいた市民の皆様からは、今回お示した高架下道路の整備方針各案を支持する意見、直線であったりＬ字であったり、そういった意見を支持するという意見のほか、将来の人口減少、市の財政状況を考えれば鉄道高架そのものに反対という意見ですとか、老朽化が進んでいる跨線橋を架け替えた方が良いという意見、さらには鉄道高架事業を早期に進めるべきなど、様々なご意見をいただいたと考えております。本当に色々なご意見をいただけて良かったと思っています。
- ・ 私としては、今、老朽化が進んでおります跨線橋をインフラ更新の機会とともとらえており、それに合わせて都心部のにぎわいをつくっていく、そのために鉄道高架を早期に事業化しなければ、実現しなければならないと考えております。
- ・ 本日も午後から市民説明会をコア鳥取で開催いたしますし、意見募集も８月３日まで実施しております。会場でのアンケート回収も行っております。そういったことも含めてしっかり市民の意見を集めながら、９月定例会までに整備方針をしっかりと考えて判断してまいりたいと思っております。

(質問)

- ・ ９月定例会までに整備方針を決めるということですが、市民意見募集で市が提案しているＢ案以外の案が圧倒的に多かった場合、スケジュールはそのまま変わらないで進めていこうとお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 例えばＡ案やＣ案が多かった場合は、そういった意見を主体的に進めていくことになる可能性もあります。スケジュール的には変わることはないと考えております。

(質問)

- ・ クールシェルターについて、実質的に釧路地区は今年度から稼働となりますが、今年は暑い日が続いていて、熱中症特別警戒アラートとか、３０度に達したらといった基準があるとお聞きしていますが、今年は７月に入って２９．５度になったときに、私が確認したところでは稼働しておりませんでした。釧路市民は暑さに慣れていないので２５度でも暑いと言っている状況であり、逃げ場がない方も多いと思うので、今後、運用基準を見直すお考えがあるかお聞かせください。

(市長)

- ・ 最近は釧路、根室でも熱中症警戒アラートが発令されるなど、涼しいと我々も打ち出し

ていますが、ちょっと暑い日が多くなってきた気がしております。

- ・ クールシェルターですけれども、こういった状況を受けて昨年、市内の公共施設6か所にエアコンを設置して運用を開始しております。
- ・ 対象施設としてはコア鳥取、コア大空、コアかがやき内の各図書館の一部、阿寒地区の阿寒町公民館および阿寒湖まりむ館、音別地区の音別町コミュニティセンターとなります。
- ・ 原則ですけれども、熱中症特別警戒アラートまたは熱中症警戒アラートが発令された場合、または、各施設の実測で暑さ指数が33に達すると見込まれる場合に、クールシェルターとして開放することとしておりますが、これらと同程度の暑さになると見込まれる場合は、施設ごとの判断で柔軟に対応させていただいております。
- ・ なお、今年度につきましては、先月7月から各施設において順次運用を開始しております。利用実績は合計213人となっております。
- ・ 全国的に暑さへの対応が求められており、この涼しい釧路においても例外ではないと考えております。
- ・ 市民の皆さんの熱中症予防対策の一助となるよう、適切な運用に努めてまいりたいと考えております。

(質問)

- ・ 今年の開設状況をお聞かせください。

(環境保全課総括係長)

- ・ 今年度の開設状況について、コア鳥取では、7月23日から25日の3日間、コア大空は、7月23日から25日の3日間、コアかがやきは、7月22日から25日の4日間開設しております。阿寒町公民館は、7月1日、5日から8日、18日、22日から25日までの10日間開設しております。阿寒湖まりむ館は、7月22日から24日の3日間、音別町コミュニティセンターでは、7月23、24日の2日間となっております。
- ・ 施設に応じて柔軟に運用しておりますので、ご理解いただければと思います。

(質問)

- ・ 津波避難について、一昨日、沿岸に発表された津波警報を受けて、沿岸の地域に避難指示を出す際、インターネットなどで伝えるＬアラートでの発信が遅くなったことについて、市長の受け止めをお聞かせください。

(市長)

- ・ 今回の津波警報に対する避難措置、我々市役所として全力で当たらせていただいて、職員も頑張っていたところでございます。その中でＪアラートですとかホームページ、ラインでの告知、メールといったものはスムーズに行えたのですが、Ｌアラートに関しては、少しタイミングが遅れてしまったところがございます。
- ・ これについては、避難対象人口の入力等が非常に煩雑な手続きを要する仕組みでありまして、実際には手入力で時間がかかることで誤りも生じやすいということでございます。
- ・ 今後は災害に応じた周知文案をあらかじめ用意しておくなど、そういった対応を取りながら迅速に発表できるようにすることや、複数でチェックする体制を構築し、訓練することなどを通じてブラッシュアップしていきたいと思っております。
- ・ 正直、災害の時に入力できるのかということもありますので、北海道に改善を求めています。

(質問)

- ・ 今お話がありましたが、これまで既に遅れたことについて原因や検証といった作業を進めている、あるいは今後進めていくといったお考えはありますか。

(市長)

- ・ これは随時行っておりますし、今回非常に4,000人近い方が避難されました。私は

非常にありがたいことと思っておりますし、市民の皆さんが動いてくれた。

- ・ ただ、これからそれが遅いか、早いか、地区はどうかといった分析を行っていきますし、それに対して避難場所開設など市役所職員は頑張っただけでございました。トータルで79もの避難場所運営を市役所職員がやってくれておりましたので、そういったことも含めて、そこで何が起きたのかということ、これから情報収集しながらさらに改善できるところをピックアップして、災害対応全体をブラッシュアップしていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 市民の方の中には避難すればいいのか、しなくていいのかとか、避難先がすぐにわからなかったといった声もあったようですが、今後、ハザードマップなどは既にありますけども、こういった人に向けた対策について、何か考えていることはありますか。

(市長)

- ・ これまでも行ってきたことですが、避難訓練や出前講座など、そういったことを鋭意行わせていただいております。民間団体の協力も得ながら進めさせていただいていたところでは。
- ・ ただ、まだ周知しきれていない部分がありますので、そういったところをしっかりと小まめにやっていくしかないと思っております。それからハザードマップの更新や施設等の話し合いなども含めて随時進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ こういった人からの問い合わせの電話も市役所に相次いだと聞いておりますけども、こういったことも発信の遅れの一因かもしれませんけども、電話が殺到していたということで、市民に何か呼びかけたいことなどはありますか。

(市長)

- ・ まずJアラートは鳴っておりますので、避難していただきたい。今回は内陸部の方も避難していただいていたので、それについて本当に良かったことだと私は思っています。そういったことも含めて、まずはそういった通知が来たら避難するというのが原則にあります。
- ・ そして電話での問い合わせですけども、やはり市民の皆様は不安なときは電話してしまうのかなと思います。それを災害時にどこまで受けられるのか、大津波時はどうなのか、そういった問題もあると思いますが、改善できるところは色々話し合っただけで改善していきたいと思っております。

(質問)

- ・ Lアラートに限らず今回の津波を受けて、全般的な今後の津波対策についての考えというか、ブラッシュアップしていくとおっしゃってございましたけども、新たに検討したいことなどについて、お聞かせください。

(市長)

- ・ 先ほど申しました市民への避難対策の周知等をまずは今まで通りしっかり行っていきたくて思っております。そのうえで今回は津波警報ですけども、その津波に対する施設は既に整っておりますが、大津波発生時の施設は、まだ、津波避難タワーや複合施設は建設中であり、揃っていないところもございますので、そういったところはしっかり進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 津波避難タワーのお話もありましたが、近隣の自治体にも避難した人が多かったと思いますが、今後対策を加速させていくお考えはありますか。

(市長)

- ・ 釧路町の例だと思いますけれども、実際には今回の津波の被害想定の中に入っていない地区でございます。ただ、そういった大津波への備えはしなければいけないと思っております。

ますので、国とも相談しながらしっかり進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 避難指示の遅れ等の話がありましたが、バタバタする中で10地区に避難指示がアラート上のシステムで発令できていなかったということがあったと思います。
- ・ あまり人が住んでいない地域かもしれないですけども、やはりそこにいた人からしたら、釧路市の避難指示が出ている、出ていないは判断の重要なところだと思いますし、命に関わる話だと思いますので、その点の市長の受け止め、どのように改善していくかお聞かせください。

(市長)

- ・ 今回、Jアラート、ホームページ、ライン等はしっかり発令されておりました。そういった意味でその地域の人たちにも届いております。今回のJアラートに関しては、正直、改善が必要と思っておりますが、我々が入力ミスしたことも事実でございますので、その部分はしっかり反省しながら改善に向けて努力していきたいと思っております。

(質問)

- ・ やはり今回職員の方が対応に追われ、色々想定外があったということだと思います。
- ・ 電話の問い合わせをはじめ、大津波で避難場所と想定している施設に市民の方が多く逃げ込んだと聞いております。
- ・ 例えば市民に改めて呼びかけたいこと、事前に確認してほしいこと、こういったものを備えておいてほしいなど、具体的に何かありましたらお聞かせください。

(市長)

- ・ 今回大津波の避難所に逃げていただいたことに関しては、間違いではないと思っております。しっかり逃げてくれたこと、それに感謝したいと思っております。逆に逃げないで留まった方もいると思うので、そういった方はなるべく逃げて欲しい、避難してほしいというのはございます。
- ・ それから例えば津波が来るのに洪水など他の災害の避難所に逃げるとか、そういった場合は間違って逃げてしまったら大変なことです。そういったことは我々も今後避難訓練ですとか講習、広報くしろなども使いながら周知を進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 周知とは災害種別に応じてどこに逃げるかといった避難場所等についての周知ということよろしいですか。

(市長)

- ・ そうですね。ハザードマップ等を活用しながら周知していきたいですし、実際にハザードマップに入力すれば出てくるのですけれども、お年寄りがそういったネット上のものを使えるかという使えない方もいらっしゃると思うので、そういった方には丁寧に今後とも周知を進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ お年寄りの方への対策について、今回の避難指示に関しては、具体的に地域としてここは逃げてくださいと出たのが、こちらの認識ではJアラートで示された地域と思っております。
- ・ メールやライン等では周知されていたと思いますが、スマホなどの操作に慣れていない、そもそも持っていない方もいらっしゃると思います。周知方法について、今後どのようにしていくか何か考えはありますか。

(市長)

- ・ 防災行政無線での周知も同時に迅速に行っております。多くのお年寄りも避難してくれているので、そこはネットなど電子的以外の方法もしっかりやっているところでございます。

- ・ 警報になると沿岸部に市の職員も近づけないことも出てきますので、どこまでできるかはわかりませんが、最大限の努力をして周知していきたいと思っております。

(質問)

- ・ 今回津波注意報、警報発令となった30日など、鶴間市長自身が出張で釧路不在だったと思います。出張中、東京等に対応されていたと思うのですが、市長としてどのような対応をされていたか、情報収集されていたかお聞かせください。

(市長)

- ・ 当日は釧路地方総合開発促進期成会の中央要望ということで、私も管内町村長とともに行ってまいりました。その中で朝に津波警報が発令になりました。電話、グループライン等でのやりとりも行っておりまして、ZOOMでオンライン会議にも参加させていただいておりました。状況把握は総体的に同じような環境でできたと思っております。
- ・ ただ私の気持ち的には釧路に居たかったこともありますけれども、不在になっても副市長中心に災害対策本部が運営される仕組みはできておりますので、そういったことも想定しながら今後ともしっかりとした対策を進められるようにやっていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 避難指示の件について、当日市民から問い合わせが殺到したということですが、今回の避難指示が結果として遅れたことについて、市民からの苦情はどのくらいありましたか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 津波警報が発令した9時40分、まず防災行政無線で避難周知を行っております。その後、10時5分にラインや市ホームページを使って周知しているところでございました。結果的にLアラートを使った避難指示について、タイムラグが生じたことによって通知が遅れたことは事実でございます。
- ・ 市民の方からの問い合わせについては、多かったのは最初の防災行政無線を受けて、私はどういったところに逃げたらよいか、どこが開いていますかといった問い合わせが多かったのは事実でございます。そういったことも含めましてメールでもご意見を何件かいただいているところでございます。

(質問)

- ・ 何件かの問い合わせは苦情というか批判というか、対応に対する苦情が数件来ていたといった理解でよろしいですか。

(避難対策調整主幹)

- ・ ご意見をいただいたところでございます。

(質問)

- ・ 苦情とは違うのですか。どういったご意見がありましたか。

(避難対策調整主幹)

- ・ ホームページが混雑していてつながりにくかった、それから多かったのは事前からこういったことを知っていればよかったということで、こういったことを知らなかったのでWEBハザードマップなどをもっと広報してくださいといったご意見がありました。

(質問)

- ・ 避難指示が遅れたことに関する苦情はなかったという理解でよろしいですか。

(避難対策調整主幹)

- ・ タイムラグが生じて遅れたことについて、どうしてですかというご意見はありました。

(質問)

- ・ 当日、市長は東京に居たと思いますが、不在でもやり取りできる環境であったと思いますが、市長自身は釧路市内に津波警報が出た状況で釧路に戻ろうと検討されたのですか。

(市長)

- ・ 検討はしました。

(質問)

- ・ 検討はしましたが、しなくても大丈夫という判断に至ったのか、物理的にできなかったのか、それはどういった判断で東京に留まることになったのですか。

(市長)

- ・ 中央要望は年に1回しかない機会ですので、しっかりと要望したい、それが市長として現場で最大限できることだったということもありますし、被害想定などからも勘案しながら進めておりました。

(質問)

- ・ 製材大手のスナダヤについて、釧路市内に新しい工場をつくと先月発表があったのですが、その件に関して市長もコメントを出されたのですけれども、一方で当初は日本製紙釧路工場の跡地につくるといった計画だったのですが、別な地域に移ったことで、鳥取地区に広大な活用されていない土地が残ると思います。
- ・ 市長も企業誘致を進めていると思いますが、改めて日本製紙釧路工場の活用に向けた、市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ 日本製紙跡地の活用は、市にとって本当に最重要の課題の一つであることは変わっておりません。経済界ですとか国や道の協力も得ながら、今後、日本製紙との話し合いもしっかりしながら、私が先頭に立って進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 具体的に複数社と誘致に向けて交渉を進めているといった理解でよろしいですか。民間同士の話ですけれども、どのような状況ですか。

(市長)

- ・ 日本製紙が問い合わせを直接受けている部分はわかりません。私の方にはまだ具体的な問い合わせなどはありません。

(質問)

- ・ そういったことに向けて誘致の補助金の制度などを見直したと思いますが、今後さらにそれを拡充していかなければならないなど、市長のお考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ 柔軟に対応していきたいと思っています。今は物価高騰ですとかそういった部分で建設費自体も上がってきていることもあります。それから誘致したときの経済効果といったところを加味しながら今後判断していきたいと思っています。

(質問)

- ・ 都心部整備について、直線化案を軸に今皆さんに説明していると思うのですが、先ほどのお話だとL字化案や、直線4車線案が多かったら、それを主体に進めていく可能性もあるといった発言があったと思うのですが、市長の基準といいますか、市民からのコメント、意見など、どのような意見がどの程度多かったら、そちらを軸に進めていく可能性に変わっていくのか、そういった基準は決めているのですか。

(市長)

- ・ 基準は具体的には今のところ決めていなかったのですが、圧倒的にそういう意見が

多いというならば考える必要があると思います。

(質問)

- ・ 阿寒地区の市政懇談会において、住民の方から住民投票をどのように今考えているかといったことで、市長から議会の方でといった発言があったと思いますけれども、2月に比べてあまり積極性を感じない印象だったのですが、住民投票に対する思い、変化した背景、理由があればお聞かせください。

(市長)

- ・ 変化はしていませんけれども、当時も住民投票が選択肢の一つとして検討したことはあります。それを今は議会と協議して進めるといった方向で、今職員とともに頑張っている状況でございます。

(質問)

- ・ 特に思いとして2月から自分の中で変わってはいないといったことですか。

(市長)

- ・ 変わっていません。

(質問)

- ・ 先ほど津波避難指示の関連で、入力ミス10か所といった話がありましたが、具体的にはどこの地区になりますか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 後ほど資料をお渡しさせていただきます。

(質問)

- ・ 避難指示の関係について、今回手入力をされたといったことで、夜中だったら職員の方がそもそも防災庁舎に参集できないこともありうると思います。全国色々な自治体の避難指示の出し方を見ていると、今回釧路市はハザードマップと比較をして厳密に人数も出されたと思うのですが、すごく大雑把に関係ないところも含めて出すような自治体もあります。場合によってはその自治体全部、ここは関係ないといった地区にも出ることもあるのですが、そちらの方が早く出せる利点はあると思いますが、その辺の避難指示の出し方について、何に重きを置いてどうすべきと考えますか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 深夜ですとすぐにＬアラートを使っての避難指示はなかなか難しい状況でございます。そういったこともございまして、気象庁等では津波の高さに応じて、大津波警報や津波警報といったものを発表することから、地域住民の方が分かった時点で、まず避難をするようにと周知しているところでございます。
- ・ 先ほどご指摘のありました大雑把にといったところで避難指示を出してはどうかといったところもあるのですが、今我々としてはやはり避難すべき対象の人方に避難をまず呼びかけるといったところを中心にやってございます。ただ迅速性に今回課題が見つかったところでもございますので、どのようなやり方が良いかは、今後他の市町村にもヒアリングを行いながら検討してまいりたいと思っています。ただ仮に全域に出した場合に、多くの方が逃げることによって、例えば道路が渋滞してしまうとか、どちらが良いのかはメリット、デメリットがあると思いますので、こういったことも今後検証していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 津波の件について、今回米町公園の方に行きましたが、車が大渋滞して滞留し、駐車場

も通路も満杯といった状況があり、今回の米町公園に限らずそういった車の渋滞状況は、どのような状況だったのですか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 全ての道路がどのくらい渋滞したかについては、まだ把握しきれていないのが現状ですけれども、おっしゃっていただいた米町公園、それから鶴野に向かうところで渋滞が発生したことは聞いております。

(質問)

- ・ 今後の改善に向けた方向性をお聞かせください。

(避難対策調整主幹)

- ・ 平時から市民の方には、津波災害においては、車避難ではなく徒歩避難をお願いしますと呼び掛けております。車避難ですと渋滞、あるいは車が動かなくなったときにそこで避難が終わってしまって、無事に避難場所まで辿り着けない可能性があることから、日頃から徒歩避難でお願いしているところであるのですけれども、こういったところをまた出前講座などを中心に周知を徹底してまいりたいと思っております。

(質問)

- ・ これまで津波警報、大津波警報を経験されている中で、改めて今回浮き彫りになった課題はありますか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 課題等については、まず庁内の関係部署から聞き取り、今回開設した避難所などから課題を収集しまして、これからこういったものが課題だったかを精査しているところでございますけれども、我々が今感じているところでは、災害発生初動期といったところの対応についてマニュアルの改訂、関係部署との共有が必要、浸水域内の方を避難場所にきちんと誘導することをどのように理解してもらうかといったところの周知が課題でございました。
- ・ また、今回のように避難が長期化する場合の資材の提供や人員の配置といったところも、課題があったと認識しております。

(質問)

- ・ 避難された方は4, 000人ほどですか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 午後2時の段階で3, 933人の方が避難をしていたところでございます。

(質問)

- ・ これまでの津波警報や大津波警報発令時と比べて、避難者数は多かったのですか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 東日本大震災時は1, 500人ぐらいが最大値だったと思います。途中で大津波警報に切り替わるなど、いろいろ状況が変わったこともありますので、一概に比較はできないのですけれども、過去の事例ですと東日本大震災の 때가最も多いと記憶しております。

(質問)

- ・ 市民の方の避難に対する考え方が広がってきていると、考えることができますか。

(避難対策調整主幹)

- ・ 広範囲の方々に逃げていただいた意味では、東日本大震災や能登半島の被害を踏まえて意識が高まってきていると考えております。

(質問)

- ・ ふるさと納税の寄付額が、昨日、総務省から発表されましたが、白糠町、別海町、根室市がトップ20に入り200億円突破と、近隣自治体はとても伸びている傾向があると思いますが、釧路市は昨年度より実績が下がってしまい、上位に食い込んでいない状況にあ

と思いますが、こちらについての受け止めと、今後こういったところに力を入れていきたい、また、今伸び悩んでいる要因について、市長の見解をお聞かせください。

(市長)

- ・ 2023年度に比べて2024年度は減少してしまいました。そういった中で原因としては欠品、予定どおりに最後まで品物を供給できなかった部分、売れ筋の部分であったといったことでございます。
- ・ そういったことを改善するために、4月からマーケティング戦略室を立ち上げまして、鋭意すごい速さで取り組んでくれていると思っております。
- ・ それから事業者との話し合いもしっかりしていく必要があると思っております。在庫を貯めていただくことも必要になってきますので、そういったことも話し合いながら進めていきたいと思ひますし、配送なども変えていきたいと思ひております。